

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1292000013
法人名	社会福祉法人愛仁会
事業所名	グループホーム恵天堂
所在地	〒289-2612 千葉県旭市蛇園2532-9 (電話) 0479-55-5208

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(19年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48000円	その他	食費45,000+ 管理費(水光熱費含)30,000+ 実費	
敷金	有(150,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.1 歳	最低	66 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団カメラア会江畑病院
---------	-----------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム恵天堂は高台で心安らく眺望の所である。また同一敷地内に医療施設、介護施設、美術館があり、上質の環境となっている。ホーム内はゆったりくつろげるウッドデッキ、広い廊下に歩行時に途中休憩できるようにソファが置かれている。部屋の名札は「手作り折り紙」で1人1人の生活がイメージされたものである。職員には熱意が感じ取られ、「尊厳のある暮らしの中でご利用者の個性を生かし心身共に健やかで満足ある快適な生活を共にあゆみます」の理念を全スタッフが共有しており、今後益々期待が持てるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が自己評価を共有しており、ミーティングで具体的な取り組みを検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2007年5月10日に第1回が開催されており、参加者は市の担当者、市議員、近隣住民などである。今後は入居者、家族らの参加も望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>重要事項説明書に苦情相談窓口が明記されている。月報、健康状態の報告書を毎月家族に送っている。今後は運営推進会議等で家族の意見を聞く機会をより多くすることが望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の消防団と特別養護老人ホーム恵天堂と合同で消火訓練を行なっている。特養と同一敷地内にあるため、散歩がてら訪問しあっている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳のある暮らしの中でご利用者の個性を活かし心身共に健やかに満足のある快適な生活を共にあゆみます」を理念に掲げ、玄関と事務所の2箇所の見やすいところに、さりげなく掲げられている。		理念をパンフレットに掲載すると、より一層広報になると思われる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は同じ目線で、ミーティングの時に話し合いの場をもっており、質の向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人の特養と合同の行事予定をつくり、入居者家族、職員、ボランティア、地域老人会らと共に交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各外部評価項目の内容を確認しながら職員全員で自己評価を行い、改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議を平成19年5月10日に開催している。参加者は市職員、市議員、近隣住民らである。		入居者、家族らの参加も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員、社会福祉協議会職員が来所し、相談や意見交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月報、お小遣い帳の写し、健康状態の報告書を毎月郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に明記している。		運営推進会議等で家族の意見を聞く機会を多くし、運営に反映させることが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はいまのところ生じていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に職員を参加させる仕組みがあり、研修報告は全員で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡協議会、ブロックケア会議に参加し連携を取っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>在宅ヘルパーの情報や、体験入所2泊3日を行い、入居者の不安を最小限にする工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除、食器洗い、米磨ぎ、味噌汁づくり等を一緒に行なっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活を通して入居者の思い、できること、できないことなどを把握している。毎日の申し送り、週1回のカンファレンスを通して入居者の情報を全職員で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>身心の機能低下を予防するために、家事やレクリエーションの中で体を動かしたり、入居者が楽しめる遊びを取り入れている。ボランティアによる編み物教室、裁縫など手先を使う作業は入居者にも好評で、ホームで使用するお絞や雑巾などは入居者が作っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月に1回見直しをしている。入院するような事態が生じた時、地域の医療機関、家族と連携を取ってすばやい対応をしている。退院後も入居者の心身の機能低下を予防し、寝たきりにならないように介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を取っており、ホームに隣接する同法人の恵天堂訪問看護ステーションと連携し、入居者の定期的な健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人や家族の希望で入居後引き続き同じかかりつけ医にて受診する場合と事業所が連携する医療機関に変更する場合がある。いずれの場合も本人・家族の意向を優先している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医と家族の面談にホームの管理者も入り、重度化したときの対応について話し合っており、全職員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は「さん」付けで名前を呼んでいる。排泄や入浴等の介護に当たる時は特にプライバシーの確保に注意している。個人情報のある書類等は鍵付きの保管庫で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や家事などは入居者のペースで進められており、押し付けは見られない。口答で意思の表出が困難な入居者に対しては、表情や顔きを見てゆっくりと対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の主菜・副菜は、隣接している同法人の事業所で作られ、ホームではご飯と味噌汁のみを入居者と職員と一緒に準備している。入居者の希望で買い物して調理したり、気分を変えて弁当にしてウッドデッキに出て食事を楽しむこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調を考慮しながらほぼ毎日入浴している。入浴剤も入居者個々の好みに応じて使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内での行事以外にも隣接するデイサービスの行事などに合同で参加している。敷地内にある畑で野菜を育てたり、芝生の草取り、室内の掃除や食事後の後片付けなど入居者のそれぞれの役割を活かしゆったりと生活している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員で月2～3回は外出しているが、入居者の個人的な旅行や墓参り、法事などへの参加は家族と自由に行っている。車椅子を使用する入居者の送りなどには職員が同行することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	尊厳のある生活を維持する理念のとおり、ホームは開放的で居室からはウッドデッキを通じ庭に自由に出入りできるようになっている。表の玄関は、敷地内に業者の車などの出入りがあるため、安全性の確保から入居者が出たときブザーが鳴る仕組みになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	本年6月に入居者を対象にした避難訓練を行った。11月には「消防用設備等点検」を済ませている。消防団、地域住民との協力関係は法人全体として歴史が長い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養計算がされている。摂取量は毎日記録されている。食事以外にも午前・午後のお茶の時間を取っており、水分摂取量についても記録がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の部分共すべてバリアフリーである。食堂兼居間は、間取りの中央に配し、明るく、開放的で、ウッドデッキに続いている。廊下は1間あり、手すりが設置され、2箇所に長椅子が置かれている。行事写真、手作りの作品など季節感のあるものを取り入れて居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は6.5平米あり、洗面所、トイレ、収納スペースが確保されている。入居者の生活習慣によりベッドか布団にしている。家具やテレビ、アルバムなど馴染みのあるものを自宅から持ち込み自室でのゆったりとした生活が確保されている。		